



青年部集合写真

積み上げられた 大川の魅力を伝えていく

大川商工会議所青年部会長

(有)内藤額縁店 内藤 大敬 さん

今年創立三十周年を迎えた大川商工会議所青年部。今回の夢追い人は、節目を迎えた青年部の会長である内藤さんにお話を伺いました。

積み上げられてきた「縁」

まずは三十周年記念式典・記念講演会を終えられた感想を聞かせていただきました。

「小さな単会の記念式典ですが、全国各地の会長や日本商工会議所青年部会長にご出席いただきました。講演会もほぼ満席になりました。講演会もほからよかったよ」という声をかけて頂いています。また様々なメディアにも取り上げて頂いて、周年事業としては、概ね成功かなと思っています」

JR九州クルーズトレイン『ななつ星 in 九州』を手掛けた水戸岡鋭治氏を招かれての記念講演会でしたが、大盛況だったとお伺いしております。

「三十周年事業実行委員長としての希望で、先生にお願いすることになり、今年二月の半ばに、お会いするために東京へ行ったりもしました。様々なご縁があって、今回は先生に講演をしていただけることになり、それが良いPRになったのかなと思います」

三十年という節目を迎えた青年部ですが、積み上げられてきた歴史の重みを実感する瞬間はあったのでしょうか。

「準備をしていくなかで、徐々に実感していきました。本番が近づくと連れて、OBの方々からご協賛やご協力をいただけたこと。そのOBの方々や先輩方が積み上げられてきたものがあるからこそ、他の地域の会からもたくさんご参加いただきました」

ひとつの会から五名程度参加されることが多いとのことでしたが、今回はほとんどの会から十名以上の参加、柳川



式典準備



式典で挨拶する内藤さん

や久留米からは二十人ほどの参加があり、内藤さん自身も大変驚かれたようです。「式典・講演会をやりますとお知らせしたからといって、簡単に参加いただけるとは思っていませんからね。先輩方が積み上げられたご縁だなと実感しました。他にも大川商工会議所青年部初代会長にも参加いただけて、期待されているのかなと勝手ながら思っています」



大川の魅力を伝える 『木のきもち』

青年部が携わっている事業のひとつに『木のきもち』があります。

「青年部を設立した目的のひとつに『地域商工業の発展に寄与する』というものがあります。その原点に戻り、自分たちは大川のためになができるか。どうすれば大川の魅力が伝わるか。そういったことを考えて取り組み始めたのが『木のきもち』です」

『木のきもち』という名前前の草のバウムクーヘンを作ったのが七年前。それから色々な方の協力を得て、実際の方向性が定まり、本格的に動き出したのが昨年のこと。

「現在は月に一度、コーディネート、女性会、市役所、それから青年部メンバーでいろいろとアイデアを出し合っています。近いうちに試作品を作って、今年中には、こういうものを作っていこうという方向性を定めたんですね。試作品もおもしろいものが出来そうです」

額縁の『枠』にと らわれない

青年部会長だけでなく、本業でも忙しい日々を送っている内藤さん。せっかくの機会なので、内藤額縁店のこともお伺いしました。

額縁はもちろんですが、店内には様々な画材が取り揃えられています。しかし内藤さん曰く、絵画を趣味とされている方も減っているとのこと。それでは内藤額縁店は、どのような取り組みをされているのでしょうか。

「プロの選手のサイン入りユニフォームを額縁に入れましょうというものがあって、全国各地からそういった注文を頂けるようになりました」

スポーツ用品のディスプレイに関しては、個人のお客様だけでなく、プロチームなどから直接注文がくることもあるとのこと。なかにはオリンピックの競技用ウェアを現地会場展示用としてディスプレイすることもあり、開催間近



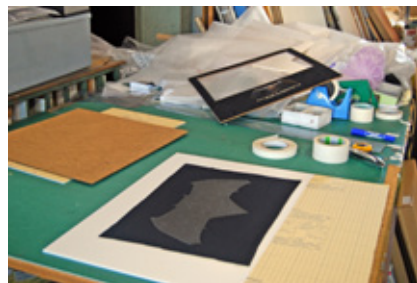
ロナウドユニフォーム

のリオ五輪の現地会場でも飾られるそうです。

「いわゆる『お宝』も飾りますが、思いつきの品を飾りましょうというコンセプトです。極端な例ですが、旅行先で記念に拾ったものも、その方にとっては紛れも無いお宝です。その方にとつての思い出の品を色褪せないものにするお手伝いを行っています」

お客様のお宝をより良いものにするお手伝い。額縁といえど、『枠』にとらわれない発想が、全国各地たくさんのお客様に愛される魅力のひとつなのかもしれません。

「大川ならできるでしょう」というオーダーを受けられることでもあります。塗装の色だっ



ツキ板、一枚板風

たり、ツキ板の技術を活かしたものであったり。やっぱり大川だからこそ出来ることもたくさんありますから」
様々なことに挑戦されてきた青年部ですが、今後はどのような活動をされていくのでしょうか。
「やっぱりまずは、会員数を増やしたいですね。一番多い時で二〇人ほど入会していたみたいで。やっぱり人数が多いからこそ出来ること、いろいろと出来ることも増えていくと思うので。大川市内に限らず、市外の異業種の方や、世代の違う方とも繋がりが出来ますし。青年部に入ったからこそ出来た繋がりを実感するメリットもたくさんありますし、色々な方に入会して頂きたいですね。それから『木のきもち』などで、大川のPRをしていけたらいいなと思っています」